ひとくち

感染症情報

東京都健康安全研究センター
2024年11月21日

伝染性紅斑が増えています！

どんな病気？

子どもを中心に流行するヒトパルボウイルスB19を原因とする感染症です。

子どもの場合は一般的には順調に回復しますが、大人がかかると関節炎や頭痛など、さまざまな症状があらわれることがあります。特に、妊娠中にかかると流産や胎児の異常が生じることがあるため、感染予防や感染した際の経過には注意が必要です。

どうやって感染するの？症状は？

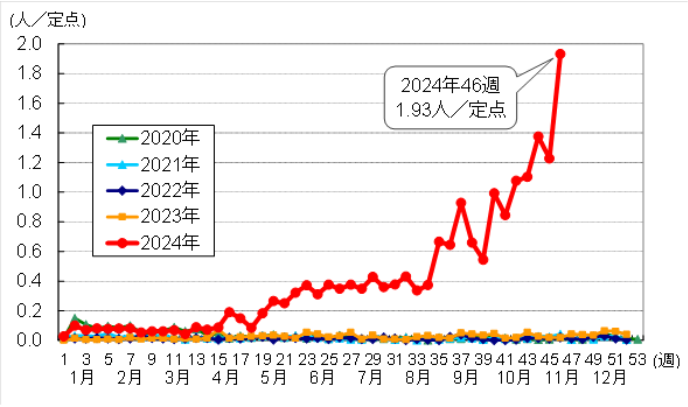
患者の咳やくしゃみなどのしぶきに触れることによって感染（飛沫・接触感染）します。

症状は、約10日間の潜伏期間の後、両ほほに紅い発疹が出現し、続いて体や手・足に網目状の発疹が現れ、１週間程度で消失します。発疹が淡く、他の疾患との区別が難しい場合もあります。

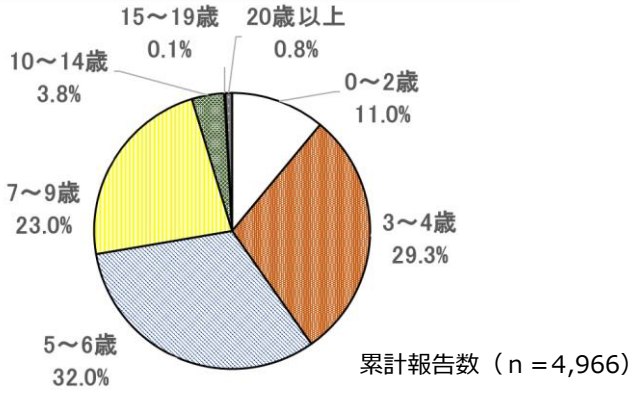
多くの場合、両ほほに発疹が出現する７～10日前に、微熱や風邪のような症状がみられることが多く、この時期が一番人にうつしやすくなります。発疹が現れる時期には、感染力もほぼ消失します。

どれくらい多いの？

近年は報告の少ない状況が続いていましたが、2024年第46週（11月11日～17日）において、定点当たり報告数が31保健所中15保健所で警報レベルを超え、保健所管内人口の合計は、東京都全体の57.75%となり、警報基準に達しました。警報基準に達したのは2018年以来です。



東京都における定点当たり患者報告数（伝染性紅斑）（過去5シーズン）
東京都感染症発生動向調査より https://idsc.tmiph.metro.tokyo.lg.jp/



伝染性紅斑の患者報告数の年齢階層別内訳
（2024年第1週から第46週分）

治療や予防法は？

特別な治療方法はありません。患者の症状に合わせた対症療法が行われます。

ヒトパルボウイルスB19はアルコール消毒の効果が乏しいため、流水と石けんによる手洗いをしっかり行うことが大切です。また、周りに広げないよう咳やくしゃみをするときには、口と鼻を覆う、咳がある時はマスクをしましょう。

特に、妊娠中あるいは妊娠の可能性がある女性は、周囲で患者発生がみられる場合、感冒様症状の人や患者との接触をできる限り避けるよう注意をしてください。また、保育園等で流行がみられる場合には、送り迎えを控える等の対応が必要です。